慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1987
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.60, No.1 (1987. 1) ,p.5- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	石川忠雄教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19870128--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

石川忠雄先生は、塾長としては任期半ばであるが、慶應義塾大学教授としてはこの三月で定年を迎えられ、今後は塾長の職に専念されることになる。石川忠雄先生の慶應義塾および慶應義塾大学法学部の研究、教育に対する多年の御功労に報いるには、あまりにもささやかではあるが、この一書を贈呈して、われわれ後進の感謝の印としたい。

石川忠雄先生はわが国における中国政治研究の第一人者であられる。中国研究にとかく伴いがちな過度の思い入れや過去の個人的経験の一般化に陥ることなく、あくまでも客観的、実証的に問題の解明につとめられる先生の姿勢は日中両国の学界から高い評価を得ている。同時に、先生の中正でバランスを失わない研究態度と先生の御研究から引き出された現在および将来の問題に対する鋭い洞察力と識見は日中両国の政策決定者に対し大きな影響を与えている。

石川忠雄先生はまた、多くの優れた研究者の養成につとめられた。先生の門下から幾多の中国研究の俊英が巣立ち、慶應義塾大学法学部はわが国における中国研究のメッカとなっている。さらに先生は、中国研究者のみならず法学部の若い研究者たちに学問への精進を鼓舞激励してこられた。先生の御指導と御努力のおかげで、今多くの若い研究者たちが全国の大学や研究機関で新進気鋭の若手研究者として大いにその気を吐いている。昨今、これら研究者は次々にそれぞれの研究領域における研鑽の成果をまとめ、義塾法学部に学位請求論文を競って提出している。法学研究科委員会は、その対応にいとまがないほどである。これもひとえに石川忠雄先生の御努力の成果といえよう。

石川忠雄先生は、また学生の教育に対しても多くのエネルギーをさいてこられた。塾長就任後も、激務の合間を縫

って講義やセミナーを開講され、学生と接してその指導にあたられた。先生は、それのみならずお若い頃から体育会の部長として、あるいは体育会理事として学生の徳育、体育に対しても多くの貢献をなされてきた。先生の全人格からにじみ出る影響力は先生と接した多くの学生に真摯で積極的な人生と取り組む姿勢、バランスのとれた中庸の精神、そして中国をはじめとする近隣諸国と国際政治に対する強い問題関心を植えつけられた。これら学生は社会の第一線で、先生の薫陶を生かし、時代の先覚者としてそれぞれの職域で職務に精励し、同窓会組織である地域、職域の三田会のリーダーとして活躍をしている。

この三月をもって、講壇に立たれる先生のお姿を見ることができなくなることについては一抹の淋しさを禁じえない。しかし、三田山上でパイプを燻らせながら教職員や学生と談笑し、あるいは政府のさまざまな審議会や委員会で活躍されるテレビ画面での先生のお姿がなくなるわけではない。先生がいよいよ御健康に留意され、慶應義塾の発展とわが国の教育政策や対中国政策に先生の優れた識見が生かされることを念じて、先生の法学部に対する多年の御功労に対する感謝の言葉としたい。

昭和六一年一二月

法学部長　堀江湛